



祈念史料室 みゆき

平成二十五年四月より進めて参りました「終戦七十年記念事業」の締めくくりの事業と致しまして、御幸殿一階西にて開設準備を進めて参りました「祈念史料室みゆき」もお蔭をもちまして、先月三月三十日に、日本遺族会、英靈にこたえる会中央本部を始め、県内外からのご来賓をお迎えし、開設記念式典を執り行わさせて頂きました。また今月四月二日より御遺族をはじめ一般崇敬者の皆様方に拝観内覧を頂いております。

開設に際しましては、愛原章崇敬会会长、胡光愛媛大学教授、山崎薰常盤同郷会常務理事、藤原茂愛媛万葉苑保存会常任理事の方々に、祈念史料室実行委員としてご尽力頂き、またその他関係各位のご協力により開設の運びとなりました。史料室開設にご尽力ご協力頂いたすべての皆様方に篤く御礼申し上げます。さて御遺族や戦友会の皆様方の高齢化が進む中、遺族会、戦友会の皆様から貴重な遺



ノ渡る

終戦七十年記念事業の完遂と境内整備

宮司額田照彦

品関係、在りし日の御写真やお手紙、資料等を御奉納ご寄贈頂きました。これらのご寄贈頂きました貴重な遺品、資料の一部を祈念史料室に展示しさせて頂いております。戦後世代の英靈に対する尊崇の念が希薄になる中、この史料室が国のために散華された英靈の「ご遺徳を後世に伝える」という重要な課題を叶える為の一助の施設となるべく願っております。

一人でも多くの方々に史料室をご覧頂き、これらの主旨をご理解頂けるようとの想いが、遺族会の皆様方の願いでございます。

この「終戦七十年記念事業」は、愛媛県遺族会会长でもあります、英靈顕彰会関谷勝嗣会長のもと、遺族会を始め、友好団体、崇敬者の皆様方関係各位のご理解ご協力により進めて参りましたが、三月三十日のこの「祈念史料室みゆき」の開設により、お蔭をもちましてすべての事業が、無事完遂となり

御祭神数

本年四月九日の靈璽奉安祭に御鎮祭申し上げた御祭神は一柱。総御祭神柱数は、四万九千七百二十八柱となります。

ました。

ここにご報告申し上げますとともに事業にご支援ご協力頂きましたすべての方々に改めて厚く御礼申し上げます。

今後はこの史料室が、ご遺族はもとより、崇敬者特に次代を担う若い世代の方々に、改めて平和の尊さを考える為の一助の施設となればと願う次第でございます。護國神社参拝の折には、あわせて史料室の内覧・見学是非お待ちしておりますので、お気軽にお声がけご来室下さい。

また、次に「終戦七十年記念事業」と並行して進めてまいりました「境内整備」のうち「駐車場の整備」がございます。昨年六月末に解体されました、愛媛県遺族会「みゆき会館」の跡地と、「愛媛万葉植物苑」の一部の敷地とを合わせて整備し、新たに一二〇台余りの駐車施設を設けました。例年正月三ヶ日には、約二〇万人余りの多数の初詣のご参拝を戴いておりますが、車でご参拝の方々には、従来、御本殿到着までに一時間以上の時間を要することも多々あり、ご不便をおかけして参りましたが、今年はお蔭様で車でのご参拝の方々も、神社境内までは駐車の待ち時間も殆ど無く参拝できたとのお話を各方面から頂きました。今後もより多くの方々に参拝して頂ける様境内整備を進める所存でございますので、ご理解賜りますようお願い申し上げますとともに、少子高齢化が進む最近の状況を踏え神社の更なる護持進展を計るべく務めて

参りますので、今後とも英靈の慰靈顕彰、神社の護持運営にご理解ご協力賜ります様重ねてお願い申し上げます。

祈念史料室「みゆき」の開設

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原 章



写真を直接展示するほか、アーカイブ方式による長期保存をることとし、展示は写真と拡大して映像で見て頂ける様にしてはと考えました。

しかし、四万柱を超える英靈を祀りながら戦没者の「遺影」が、まだ五パーセント程度しか集まっていないことを、とても残念に思っています。大きく拡大したお写真を見て頂ければ、まだまだご協力いただけるのではないかと期待しています。

一方で陳列する英靈の遺品等は、展示しきれないほど沢山集まりました。定期的に入れ替えて見て頂くことになりますが、その全てをアーカイブ方式で記録しますので、展示していくなくとも映像では見ることが出来るようになっています。

昨年の一月二十日に、第一回祈念史資料室実行委員会を開催して、早いもので一年が過ぎました。三月三十日に開設記念式典を迎えますが、中心となつたメンバーは、神社が額田宮司と池田禰宜、遺族会が池見県事務局長と私、そして万葉園の奉仕でお世話になつてゐる藤原先輩（幹部候補生で北支に派遣された騎兵隊出身で、丸山陸軍墓地の軍馬等慰靈碑を修復された）、山崎先生（元愛媛県立高校教諭）、胡愛大教授にも参加して頂き、ご指導をお願いしました。

最初はご遺族にお願いした英靈の「遺影」を、どう展示するかということで徳島県戦没者記念館（あしたへ）等を見学し、我々はお

徳島と違つて史料室ですから、どうしても限られたスペースを上手に活用するかが問われます。従つて一番大変だったのは、パネルの構成です。戊辰戦争から祀られている英靈が生きておられた時代の背景や部隊の様子、それに戦後の遺族会等の記録を入れ、残すものと落す部分を分けて、更にこれを端的に表現する作業では、挿入する写真の関係もあり、字数の問題等で苦労がありました。

ただ削つて落とした部分等は別途整理し、詳細な記録にしてアーカイブやパンフレットで残しておくこととしています。

なお、復員出来た先輩方も段々少くなり、遺族の高齢化が進む中で、戦争の記録を少し

でも残しておくことは重要です。それで戦争を語り継ぐために図書等も集めています。皆様の家で眠っている本等がありましたら、保存して展示しますので神社へ是非納めて頂きたいと思います。後に続く孫達へ戦争を語り継ぐ大切な資料になると思います。ご協力をお願い致します。

終戦七十年記念事業の完成

愛媛県遺族会
会長 関 谷 勝 嗣



終戦七十年記念事業として、昨年竣工いたしました御幸殿に、引き続き三月三十日「祈念史料室みゆき」が開設されました。この二事業の完成で、記念事業を完遂することができました。完遂するまでには色々な苦労がありました故、私自身にとりましても、喜び一入のものがござります。愛媛県護國神社、前宮司の小川純生氏をはじめ、ご協力いたいた関係各位に、心よりお礼申し上げます。

羽生選手と同じコーチのもと練習をしたフェルナンデス選手に報道陣が、羽生はどうかと質問したら「羽生は調子が良いから彼には勝てないだろう。今回のオリンピックが自分にとっては最後のオリンピックになるだろうが僕は銀でも銅でも良い」と言つた。スペイン育ちだからなのか、実に爽やかな答弁であった。

これを書きました今日三月一日は、奇しくも昭和二十年のこの日、私は北支派遣騎兵第四旅團騎兵第二十五聯隊の一員として、駐屯地河南省の淮陽から大陸打通作戦に続く老河口作戦に出陣した。著名な世界戦争史最後の騎兵戦となつた作戦である。

この日払暁、まさに霜は軍營に満ちて零下十數度の寒氣は肌を刺すようだった。完全武

我々、遺族会会員は、この祈念史料室みゆきの開設を機に、なお一層戦争の虚しさと和平の尊さを後世に伝えていかなければなりません。

今回は、二月九日から二月二十五日まで行われた平昌冬季五輪を通して、人間模様を見てみたいと思います。

フィギュアスケート男子一位羽生結弦、二位宇野昌磨、三位フェルナンデス（スペイン）を見てみよう。

羽生選手は昨年の右足首韌帯損傷のけがを乗り越えて、フィギュア男子六十六年ぶりの二大会連続金メダル。四年間の克己心、それを褒める以外に言葉がない。

宇野選手は冒頭の四回転ループで転倒した。しかし彼はミスを悔しがるでも焦るわけでもなく「笑いました」と言う。五輪は特別かと聞けば「一つの競技に過ぎない」と言う。度胸があると言えば良いのだろうか。

桃李不言 下白成蹊
祈念史料室実行委員
藤原茂



今回の平昌冬季五輪にも政治問題が影を落とした。IOCは南北融和の先鞭を担つたよう宣伝したが、政治とスポーツは一線を画すべきである。

韓国と北朝鮮の政治体制の違いは、かつて東西ドイツの政治体制の違いとは別質のものである。

御靈の安らかなることをお祈り申し上げつつ筆をおきます。

装に身を固め、旅囊・鞍囊に装具を整え初めての出動に緊張していた。夜が明けると広い大地を行軍する、三千騎に余る騎兵集団の偉容は言語に絶する壯觀さであった。しかし長距離快速特別切込挺身隊と別称されていた旅団の、その後の悲壮な運命を予測する者は誰もいなかった。今も時おり激戦の中戦死した戦友や愛馬のこと夢見ることがある。

ところで戦後七十年を前にした平成二十六

年、媛媛縣護國神社では「終戦七十年記念事業」が計画され、同時に県遺族会でも懸案の「みゆき会館」を解体し新体制をとることとなつた。この計画のメインとして神社に「御幸殿」が新設されることになり、平成二十八年九月二十日見事に竣工した。またみゆき会館の跡地と万葉苑の一部が護國神社の駐車場として整備された。

御幸殿には「祈念史料室みゆき」が新設されることとなり、平成二十八年十二月「祈念史料室実行委員会」が設置され私もその一人に選ばれた。英靈の慰靈顯彰は私たち生き残り者の責務と心得ており引き受けした。

祈念史料室は御幸殿の一階百三十三坪が充てられ、ここに護國神社に奉斎されている英靈の内、ご遺族から提供された二千三百余柱の遺影がパネル七基に展示され、別に英靈のご遺影とご経歴をデジタル化している。

また、ご遺族からご提供された遺書や遺品も展示されており、さらにその背景となつた近代日本や郷土媛媛の概史もパネルで解説展示

装に身を固め、旅囊・鞍囊に装具を整え初めての出動に緊張していた。夜が明けると広い大地を行軍する、三千騎に余る騎兵集団の偉容は言語に絶する壯觀さであった。しかし長距離快速特別切込挺身隊と別称されていた旅団の、その後の悲壮な運命を予測する者は誰もいなかった。今も時おり激戦の中戦死した戦友や愛馬のこと夢見ることがある。

ところで戦後七十年を前にした平成二十六

年、媛媛縣護國神社では「終戦七十年記念事業」が計画され、同時に県遺族会でも懸案の「みゆき会館」を解体し新体制をとることとなつた。この計画のメインとして神社に「御幸殿」が新設されることになり、平成二十八年九月二十日見事に竣工した。またみゆき会館の跡地と万葉苑の一部が護國神社の駐車場として整備された。

御幸殿には「祈念史料室みゆき」が新設されることとなり、平成二十八年十二月「祈念史料室実行委員会」が設置され私もその一人に選ばれた。英靈の慰靈顯彰は私たち生き残り者の責務と心得ており引き受けした。

祈念史料室は御幸殿の一階百三十三坪が充てられ、ここに護國神社に奉斎されている英靈の内、ご遺族から提供された二千三百余柱の遺影がパネル七基に展示され、別に英靈のご遺影とご経歴をデジタル化している。

作業を通じ役柄上遺書や遺品に触れる機会に恵まれたが、七十年の時空を超えて貴重な体験と得難い感動を受けることが多かった。

例えば伊予市中山町佐礼谷出身の飛田俊夫命の、戦地から家族に宛てた軍事郵便六百通には驚いた。厳しい前線勤務の中で、家族を思う心情には切ないものがあり、当時の生々しい状況が偲ばれた。

また巣鴨遺書編纂会刊行の「世紀の遺書」は不運にも法務死とされた方々の遺書七〇〇編が収録されている。何れも日本人の究極純粹の叫びが綴られていた。また「荔枝の蔭」は県人でやはり法務死の元独立混成第三十一聯隊長徳本光信命の遺詠集である。徳本大佐は戦前大洲中学や宇和島中学の配属将校をされ、あの有名な宇和島中学ボート部の応援歌「佐多の三崎に沈みゆく」は徳本大佐の作詞である。命は中国廣東で収監され、昭和二十二年四月三十日同地で刑死されたが、その間に詠まれた「死の迎ひ今日か明日かと思ふまゝ形見のしなに歌遣しけり」と、四九〇首が詠まれている。読みながら溢れる涙にどうしようもなかつた。他の戦死者の方々の遺書や遺品も何れも強烈に胸を打たれるものばかりであった。

この準備作業を終えて思つた。それは戦死した戦友の多くが独身者であつたことである。当時は互いに「まだ妻子もなく身軽で良かった」と話し合つていた。しかし

年を経て英靈の慰靈や顯彰のことを思うつけ、彼等には直系の遺族の居ないことに気付いてきた。彼等の慰靈・顯彰は彼らの甥や姪、そしてその子や孫たちに頼らざるを得ない訳である。しかしそれくらいになると、英靈の戦没地や時期など判らなくなるのが普通である。そんな場合にはこの「祈念史料室みゆき」は好都合の「しつらえ」になつておられるのではなかろうかと。

祈念史料室には額田宮司揮毫の「桃李不言下自成蹊」の額が掛かっている。この語句は司馬遷の史記にある句で「桃李もの言わざれど下自ずから蹊を成す」つまり桃や李は何も言わないが、実が美味しいので人が集り、その下には自然と道ができる。立派な人の許には自然と人が慕い集まる所である。実は同じ語句の額が靖國神社にも掲額されており、かつて外交評論家の故岡崎久彦氏が、そこに掲額されている意義を評し「流石先人は」と賛辞を表されたと承知している。祈念史料室に相応しい掲額に心から賛意を表し、願わくは英靈の遺徳を慕う参拝客の道が開け、参拝客が一人でも多く増え、祖国や同胞の為に従容と殉じた者がいたことを知つて頂きたい。

平成二十九年度

第六十四回 新穀献納慰靈祭

平成二十九年度（第六十四回）新穀献納慰靈祭は一月十一日（木）午前十一時より、愛媛縣護國神社で厳かに執り行われた。愛媛県鄉友会永井会長が祭主となり斎行された。

当日は積雪のため南予方面の方々が参列できなかつたが、ご来賓を始め県下から単位会長、役員等四十数名が参列した。県下会員、県民のご協力により拠出されたお初穂料・新穀を奉納し、英靈を御慰めした。今年度は前年度を上回る集荷を達成することができ、会员皆様方のご尽力に感謝申し上げます。

祭文

本日、愛媛縣護國神社の大前において、ご来賓及び鄉友会員多数ご参列のもと、第六十四回新穀献納慰靈祭が、厳かに執り行われるにあたり鄉友会を代表して謹んで祭文を奏上いたします。

この献穀運動は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英靈の皆様方に、収穫された新米を献じることから日本郷友連盟の発足する三年前の昭和二十八年に始まりました。

今日の豊かな生活を享受できるのは尊い英靈の犠牲の上であり、感謝の誠を捧げる慰靈顕彰の伝統行事として会員の皆様の協力を得ながら続けて参りましたが今では定着されてきました。

平成三十年一月十一日

愛媛県鄉友会 会長 永井之保

おります。今後も永久不滅の愛のある愛媛県の誇れる伝統行事として継続実施する決意を新しております。

しかし戦後七十二年も過ぎ、会員の高齢化による活動の衰退、減少が著しく、戦争を知らぬ世代七十歳以下の国民が八割以上を占めている今日、日本の将来を懸念しておりますが、軍歴がなくとも誰でもが入会できる郷友会であり日本郷友連盟の理念でもあります。自分の国は自分で守るという国防意識の高揚・英靈・殉職自衛官の慰靈顕彰・栄光ある歴史及び伝統文化を継承するという、日本郷友連盟の理念でもある、三点の具現実行を通して組織の強い活性化と維持に努めながら、先輩としてこの事業を語り継ぎ、継承・存続しなければならないと痛感しております。

今後におきましても私どもは、御祭神四萬九千七百二十七柱の方々のご加護を戴きながらこの事業を続け、百四十万県民のやさしさとパワーを結集し、豊かで住みやすい郷土造りに専念努力する所存であります。

又、自衛隊に関する事では、最近の近隣諸国の動静は予断ゆるしがたき不穏な行動が多く憂慮される中、益々のご奮闘を期待すると共に、我々は限りなく最大限の支援を続けて参ります。

終わりになりましたが、在天の英靈どうか、ご遺族の皆様を始め県民全てにご加護を賜り、安らかにお鎮まり下さいますよう祈念し祭文と致します。

零戦プロペラに屋根を

安部宣久



奉納

一般 平成二十九年十月二十日に左記の通り奉納されました。厚く御礼申し上げます。

平成三十年元旦、午前十時に私は護國神社に詣でた。境内では参拝に訪れた善男善女でにぎわい平和な光景であった。

本殿にて参拝した後、プロペラの所へ行きましたが命をかけて守ろうとしたこの国は今平和で何とかやっております。」と話しかけた。

プロペラがここにあることは数年前から知っていた。又日ざらし、雨ざらしになっている状態もずっと気に掛かっていた。三年位前に雨よけの建物を奉納しようと心に決め、大工共相談し、やっと平成二十九年の七月から取り掛かった。

当初は予算・期間共軽く考えていたが、いざ始めてみると、基礎・無節の檜・銅版葺きの屋根等思っていた以上に大規模なものになり結局十月も半ばを超えて完成をした。

完成した東屋風の建物を見ながら私は思う。

先の大戦で軍人・軍属を筆頭に一般市民を含め犠牲になった方々の事を。戦前・戦中・戦後の混乱期にご苦労された方々を。私の両親も満州から引揚げ、随分苦労したようである。

我々はこのような先輩・先人のおかげでここに今存在しております、その死々累々の上を歩かせてもらっていることを後世に伝える責務がある。それが先人に対し報いることになると思う。私もその一端を担えるならば幸いであります。

『戦友団体等による慰靈祭』

『遺族会等による慰靈祭』

平成二十九年(十月)秋季慰靈大祭奉仕者

(敬称略)

平成二十九年

十月

二十日

西予市野村町貝吹遺族会

遺族会代表獻供奉仕者
女性部 南宇和郡愛南町赤水 宮川ユキ子
児童部 南宇和郡愛南町弓立 尾崎利男

献茶葉奉仕者(茶道裏千家淡交会松山支部)

高田宗美社中 松山市石手 秋川裕子

梅村宗香社中 八幡浜市 廣瀬公美

献花奉仕者(愛媛県華道会)

聴春流 松山市二番町 丹下利香

聴春流 松山市二番町 千代田遥

敬神婦人会代表獻供奉仕者(愛媛縣護國神社敬神婦人会)

松山市遺族会 松山市居相 大濱カズ子

松山市遺族会 松山市北井門 中谷イサ子

幣殿献花奉仕者(華道家元池坊松山支部)

松山市溝辺町 松尾浩子

大洲市大洲 藤木恵利子

献奏者(愛媛県隊友会)

松山市三杉町 竹松慎一

献吟奉仕者(愛媛県吟詠劍詩舞總連盟)

九日(靈璽奉安祭)

愛媛県吟詠劍詩舞總連盟

横野	湊	稻葉	金	寺尾	横野	横野
嵐将山	江苑	水珠	本磐	嵐将山	嵐将山	嵐将山
横野	江苑	柳光	竹杖	恒洲	恒洲	恒洲
横野	江苑	稻葉	片岡	嵐将山	嵐将山	嵐将山
嵐将山		水珠	本磐			
横野	江苑	柳光	竹杖	恒洲	恒洲	恒洲
嵐将山						

「忠靈」

九日(靈璽奉安祭)

村井安夫会長以下有志一同

平成二十九年

十月二十八日

愛媛偕行石鉄会
戦没者戦争裁判殉國者

平成三十年
五月三日

新居浜市泉池町 青野照子様

「忠靈」

九日(靈璽奉安祭)

村井安夫会長以下有志一同

正式参拝

☆平成二十九年十一月二十一日

徳島県遺族会

会長 増矢 稔 様

計十名

☆平成三十年一月二日
新春揮毫奉納

書家 林 龍峯 様

計十名

☆平成三十年一月二十四日
愛媛県神道青年会

会長 柳原 永祥 様

計十名

☆平成二十九年十月八日
三宅浩正後援会事務所清掃奉仕
三宅 美香 様

計二十名

☆平成二十九年十月十日
愛媛県居合道連盟奉納

会長 滯野 紀弘 様

計七名

☆平成二十九年十一月二十八日
和プロジェクトTAISHI
代表 宮本 辰彦 様

計二名

☆平成三十年一月三十一日
養護老人ホーム江南荘
友の会

副会長 高橋 ヒサコ 様

計二十五名

☆平成二十九年十月二十三日

ミャンマー慰靈友好親善訪問団
代表 村瀬 鍵市 様

計二十名

☆平成二十九年十一月四日
松山市遺族会研修会
会長 愛原 章 様

計三十六名

☆平成三十年一月三十一日
特別養護老人ホーム久谷莊
双葉友の会

ゴウダ スミエ 様

計三十名



☆平成二十九年十一月七日

愛媛県遺族会理事会
会長 関谷 勝嗣 様

計十八名

☆平成三十年一月一日
都山流尺八中予幹部会
会長 西田 仙秋山 様

計二十五名

☆平成三十年一月十五日
愛媛県遺族会 北海道反省会
会長 関谷 勝嗣 様

計二十八名

☆平成三十年一月十七日
特別養護老人ホーム久谷莊
会長 松本 美枝子 様

計三十八名

☆平成三十年一月二十七日
松山市遺族会役員会
会長 愛原 章 様

計三十八名

☆平成二十九年十一月九日
善通寺市遺族連合会
会長 松田 栄作 様

計三十名

☆平成三十年一月一日
愛媛県隊友会
会長 瀬川 紘一郎 様

計三十名

☆平成三十年一月十七日
特別養護老人ホーム久谷莊
会長 松本 美枝子 様

計二十五名

☆平成二十九年十一月十七日

愛知県護國神社

名譽宮司 白井 貞光 様

計三名

☆平成三十年一月一日
新春居合道奉納

会長 折戸 善彦 様

計二十五名

☆平成三十年三月二十四日
愛媛県遺族会四国中央支部
支部長 石川 秀光 様

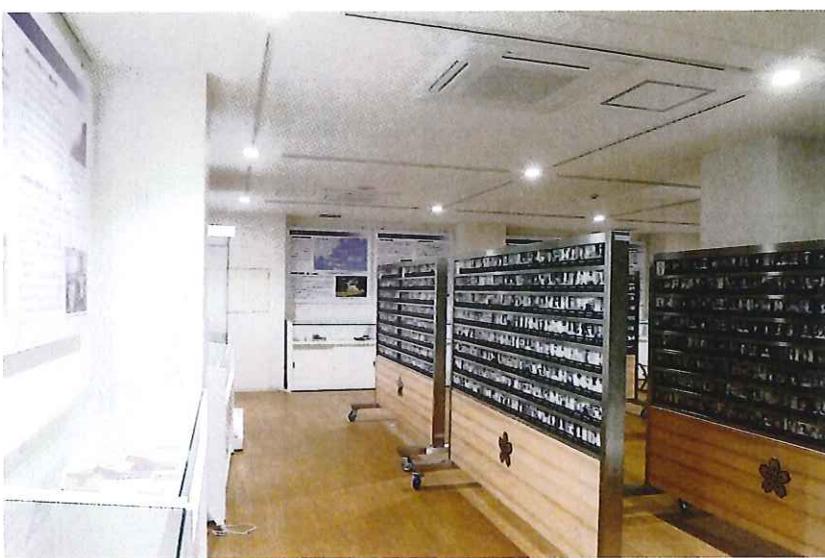
計七十五名

祈念史料室みゆき

(平成三十年三月三十日 開設)

《遺影写真の展示パネルとその他の展示》

ご遺族よりご提供頂いた二千数百余柱の遺影を展示了パネルと遺品・解説資料等の展示模様



《手紙等の展示と概史解説パネルの展示》

ご遺族よりご寄贈頂いた貴重な遺品（郵便物・鞄等）や資料の展示模様と概史の解説パネルの展示



《軍事手帳等の展示と概史解説パネルの展示》

ご遺族よりご寄贈頂いた貴重な遺品（軍事手帳・郵便物等）や資料の展示模様と概史の解説パネルの展示

